

—JNMS のページ—

Journal of Nippon Medical School

Vol. 75, No. 4 (2008 年 8 月発行)

Summary

Journal of Nippon Medical School に掲載しました Original 論文の英文「Abstract」を日本医科大学医学会雑誌に和文「Summary」として著者自身が簡潔にまとめたものです。

A Rat Gastric Banding Model for Bariatric Surgery

(J Nippon Med Sch 2008; 75: 202-206)

胃バンディングを用いたラット肥満手術モデル作成菅野仁士 木山輝郎 藤田逸郎 加藤俊二
吉行俊郎 田尻 孝

日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科学

背景：調節性胃バンディング術は体重減少を目的とした外科治療である。胃バンディング術後の体重減少のメカニズムを理解するためにラット胃バンディングモデルを作成した。

方法：体重 260~280 g の雄性 Sprague-Dawley ラットを用い、胃バンディング術を施行したバンド群 (n=8) とコントロール群 (n=8) に群分けし、術当日から術後 14 日間の体重変化、また術当日から術後 7 日間の食餌摂取量、飲水量、窒素バランスを測定した。

結果：バンド閉塞による食餌通過障害が起こりバンド群は 2 匹死亡した。術後 14 日間の体重増加はバンド群がコントロール群より有意に少なかった ($p<0.01$)。術後 7 日間の食餌摂取量、水分摂取量、および累積窒素バランスはいずれもバンド群がコントロール群よりも有意に少なかった ($p<0.01$)。

結語：胃バンディング術を施行し胃に小さいパウチを作ることによって、ラットの食餌摂取量が減少し、体重増加が抑制された。

Vol. 75, No. 5 (2008 年 10 月発行)

Summary**Cytokine Levels in Pleural Effusions of Patients under Intensive Care**

(J Nippon Med Sch 2008; 75: 262-268)

集中治療室入室患者における胸水中のサイトカインについての検討白壁章宏¹ 畑 典武¹ 横山真也¹ 品田卓郎¹
鈴木雄一朗¹ 小林宣明¹ 菊池有史¹ 高野照夫²
水野杏一²¹日本医科大学千葉北総病院集中治療室²日本医科大学大学院医学研究科器官機能病態内科学

背景：集中治療室 (ICU) に入院する症例には様々な理由で胸水が貯留する。胸水貯留の原因を理解することは重要であるが、ICU 患者とりわけ循環器疾患患者に出現した胸水中のサイトカイン値の測定を検討している報告はまれである。

目的：ICU 患者における胸水中サイトカイン値について検討すること。

方法：2001 年 6 月から 2006 年 3 月の間に ICU に入院し、胸水貯留を認めた 43 症例を対象とした。症例は Light 基準をもとに漏出性胸水群 (T 群; 23 例)、浸出性胸水群 (E 群; 20 例) に分けられた。胸水および血清 IL-6, IL-10, TNF- α 値を測定し、全身性炎症マーカー (体温・CRP 値・WBC 値) との関連を検討した。

結果：E 群は T 群に比し胸水 IL-6 値が有意に高く (E 群 $3,350 \pm 3,627$ vs. T 群 $1,677 \pm 1,086$ pg/mL)、胸水 TNF- α は高い傾向にあった (E 群 6.6 ± 3.4 vs. T 群 4.8 ± 2.6 pg/mL) が、胸水 IL-10 値は両群で差がなかった。一方両群において胸水 IL-6 値 (E 群 $3,350 \pm 3,627$ vs. T 群 $1,677 \pm 1,086$ pg/mL) は血清 IL-6 値 (E 群 176 ± 205 vs. T 群 119 ± 194 pg/mL) に比し高かった。血清 IL-6 値は炎症性マーカー (CRP と体温) と有意に相関したが、胸水サイトカイン値は全身性炎症マーカーとは相関しなかった。

結論：胸水 IL-6 値は有意に E 群で高かったが、血清 IL-6 値および全身性炎症マーカーとは相関しなかった。これらより、ICU 患者における胸水 IL-6 値は肺もしくは胸膜の局所性炎症を反映していると思われた。